

## 消防団長紹介

### 能勢町消防団 団長 泉 孝英

能勢町は、大阪の最北端に位置し、人口1万人弱の自然豊かな町です。

四方を深山（標高791m）、剣見山（784m）、妙見山（660m）、三草山（564m）に囲まれており、日本三大歌垣のひとつである歌垣山（554m）などの山々、そして、猪名川流域の山辺川、大路次川、野間川、田尻川などの清流が田園を豊かに潤しています。

町の伝統芸能として200年以上続いている“素浄瑠璃”に独自に人形を加えた“人形浄瑠璃”があり、毎年6月は浄瑠璃月間として、能勢町浄るりシアターにて人形浄瑠璃公演が開催されています。

能勢町消防団は、昭和32年に発足し、現在団員500名、組織は6分団、4機動隊により構成しており、機動力はポンプ車4台、小型ポンプ付積載車両34台、多機能車、水槽車を備えています。

主な活動は、4月の総合規律訓練、年末警戒、1月の出初式などです。毎年、5月から8月は豊能地区支部操法大会、大阪府操法大会に向け訓練に励んでいます。

私は、平成14年4月に団員を拝命、以後、班長、副分団長、分団長を歴任したのち、平成28年4月には副団長、令和2年4月には団長に任命されました。

記憶に新しいところでは、平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とするマグニチュード6.1の地震と7月初旬の豪雨です。

地震については、わが能勢町でも震度5の揺れを観測したと記憶しています。

続く豪雨については、日本付近に停滞した梅雨前線が台風7号の影響で暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込み活発になった事により、能勢町でも総降水量600ミリを超える大雨となりました。

地震で緩んだ土地に大量の雨が降った事で、能勢町の至る所で水害や土砂崩れが発生し、消防団としても、昼夜を問わずの災害対応となりました。

「まずは自分自身の安全に注意し活動するように」と団員に喚起した事を覚えています。

近年の気象変化による局地豪雨などの自然災害や、発生が懸念される大地震への対応など、地域に密着した防災機関である消防団への期待は高まっています。

我々消防団は地域防災の要として、仕事等を営みながら、いざ災害が発生した時には消防職員と共に災害活動を行うほか、地域の祭りなどでの警戒活動、また地域の防災力を高めるための防火PR活動等を行うなど、自分たちの町は自分たちで守るという精神のもと、町民の皆様の安全で安心な暮らしを築くため日々活動をしています。

今後、より力強い消防団を作るためには、地域の若い世代の皆様からの入団がぜひとも必要となります。

今後とも団員一丸となって町民の皆様の安全・安心を守るため、これからも努力怠ることなく、活動技術に更なる磨きをかけ、町民の皆さんの期待に応えていきたいと考えております。